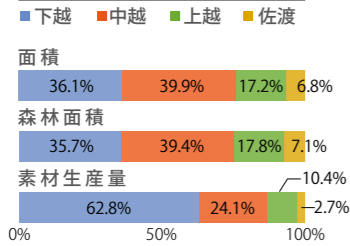


新潟県内地域別 森林・林業の特徴

新潟県は南北に広く、海・山・島と自然環境もさまざま。
だから、「新潟の森林・林業」とひとくくりにするのは難しい話です。
まずは地域別の特徴がどうなのかを見てみましょう!

参考：地域森林計画変更計画書(新潟県、平成29年1月10日公表)

森林データ 地域別割合



※素材とは、立木を伐採して枝葉を払い、用途に合った長さに切り分けられた丸太のこと

佐渡

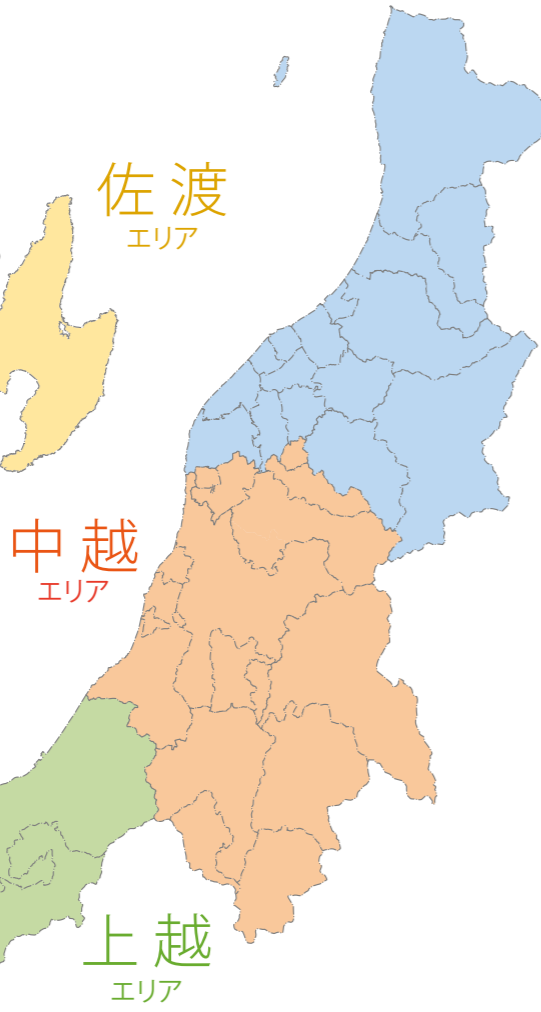
日本海上に浮かぶ佐渡島。対馬暖流の影響を受け、県の他地域に比べると温暖の差が小さく、特に南西部は温暖な気候。天然生のスギやヒノキアスナロ(アテビ)が自生するなど、多様で貴重な自然が残っており、観光資源にもなっています。

- 面積:85,561ha
- 森林面積:民有林59,080ha+ 国有林1,800ha [計60,880ha]
- 素材生産量:2,375m³

上越

豊かな自然が多く、景勝地に恵まれている上越地域。妙高山麓が森林セラピー基地・ロードに認定されるなど、森林の保健、レクリエーション的な活用が活発な地域です。一方で、地形が脆弱であることなどから、国内でも有数の地すべり多発地帯と言われています。

- 面積:216,568ha
- 森林面積:民有林115,144ha+ 国有林37,416ha [計152,560ha]
- 素材生産量:9,041m³



下越

下越

北東部の岩船や東蒲原は、林業生産活動が活発で、森林・林業が地域の社会・経済に深くかかわっている地域。南部には、木材等林産物の県内最大消費地である新潟市があります。また、人工林の割合が30.1%と比較的高いことも特徴です。(県平均は24.4%)

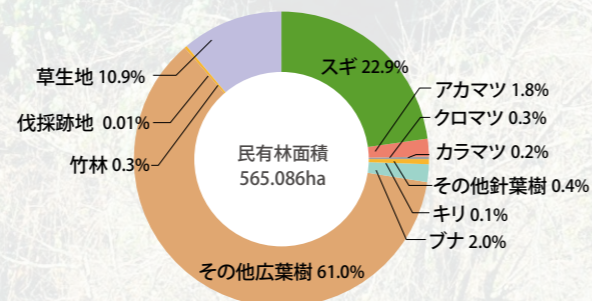
- 面積:454,321ha
- 森林面積:民有林158,323ha+ 国有林147,515ha [計305,838ha]
- 素材生産量:54,596m³

中越

豪雪地帯として知られる中越地域は、県内4地域の中でもっとも広い森林面積を有します。保安林の面積も65,531haと非常に多く、天然林は貴重で豊かな自然を形成しており、水源涵養(かんよう)や山地災害防止などの公益的機能が期待されます。魚沼地方ではきのこの生産活動も活発です。

- 面積:501,957ha
- 森林面積:民有林232,539ha+ 国有林104,783ha [計337,322ha]
- 素材生産量:20,988m³

新潟県内民有林面積 樹種別割合



Topics

なぜ新潟県ではヒノキを植えないの？

ヒノキは、優良な木材がとれるため、日本では古くから造林樹種として利用されてきました。ただ、新潟県においては、造林樹種として知られているのはスギが主で、ヒノキは基本的に植えられていません。これは、雪により漏脂病と呼ばれる幹の病気を発症するためです。雪の重みで生じ

た細かな傷から原因菌が侵入し、傷口から樹脂を流出させます。ひどくなると傷口周辺が壊死し、幹が変形したり材がむき出しになったりします。やがて木材腐朽菌が侵入し、材の変色や腐れを引き起こすことで木材としての利用価値がなくなってしまうのです。

発刊に当たって

(公社)新潟県農林公社林政部長 古川洋次

林業における「酉年

平成29年は酉年、酉とはニワトリのことを指しており、夜明けを知らせる鳴き声から、中国では吉兆をもたらす動物とされています。

また、「酉」の字にはもともと果実が熟してきた状態という意味があり、種が実り、刈り取る時期、これまでの努力が報われる時期として、酉年は商売繁盛にして収穫となる時の意味合いがあるようです。

森林・林業においては今年まさに酉年、収穫の時を迎えているのです。

先の大戦では戦中・戦後を通して大量の森林伐採が行われました。その結果、昭和20年代に入ると台風等の豪雨によって、土砂崩れや洪水が頻繁に発生し、各地に大きな被害をもたらしたことから、国を挙げた国土緑化が進みました。高度経済成長下の木材需要の高まりと木材価格の上昇もあって、スギなどの針葉樹の造林が急速に広がり、全国で約1千万ha、本県では約14万haの人工林が造成され、その多くは間伐等の保育が必要な育成段階にあるものの、伐採して木材として利用可能となる概ね50年生以上の人工林が年々増加してきています。

これまでの種をまき(植栽)、それを育てて(下刈りや枝打ち)いた時代は殆どの作業が人力でしたので、道路や大きな機械がなくても作業は可能でしたが、木を伐採して活用するためには、道の整備や伐採、運搬等を行う高性能林業機械を使った作業が主体となっていて、木材の有利販売やコスト計算も含めて、以前の林業作業とは様変わりしています。このことはつまり、儲かる林業(儲けることができる)と言った方が正解かもしれません)が実現していく時代に入ってきたということなのです。

当県の素材生産量は全国的に見れば低位であり、素材生産に携わる林業従事者の充実が重要となっているところなのです。

新潟県林業労働力確保支援センターでは、林業に関する専門的な知識が無くても、林業事業体に就業した人を対象に三年間に渡り林業に必要な知識や資格、技能を習得してもらったための研修会を実施しています。

林業をあまりよく知らないという方でも安心して県内の林業事業体の門をたたいていただければ幸いです。

目次

新潟県内地域別森林・林業の特徴…………… p.1

森で働く3ステップ…………… p.2

●STEP01 情報収集

(WOOD JAM / 新規就農・就業チャレンジフェア)…………… p.4

●STEP02 林業体験その1

(林業就業支援講習)…………… p.6

●STEP02 林業体験その2

(WOOD JOB! 森の仕事体験「青少年体験合宿」)…………… p.8

●STEP03 就業・森の担い手へ

(緑の雇用 現場技能者育成研修「1年目子エーンシー講習」)…………… p.10

【林業事業体レポート】

● 頸南森林組合…………… p.12

● 若月建設株式会社…………… p.16

● 津南町森林組合…………… p.20

林業労働力確保支援センター紹介…………… p.24